

# 令和4年秋の外国人叙勲 台湾人受章者（3名）に対する勲章伝達式の実施 について

令和4年11月3日、日本政府は令和4年秋の外国人叙勲受章者を発表しました。その中で、日台間の友好関係の増進に顕著な功績があったとして、台湾から3名の方が下記のとおり受章されました。泉裕泰・当協会台北事務所代表より、令和5年1月6日に蔡少卿氏、4月24日に江春男氏、4月26日に頼明珠氏に対し、それぞれ勲記及び勲章が伝達されました。日台関係の発展のために長年にわたり献身的なご尽力をされてこられた受章者のご貢献に衷心の敬意と謝意を表します。

## 江春男氏

勲章：旭日中綬章

主要経歴：NGO「中華文化総会」副会長

功労概要：日本・台湾間の友好親善及び相互理解の促進に寄与

日本における台湾研究を極めて初期の段階から支援し、文筆家としてコラムなどを通じて台湾の一般大衆の対日知的理解を促進するとともに、中華文化総会副会長として日台文化交流を推し進め、日台友好に寄与した。



## 頼明珠氏

勲章：旭日双光章

主要経歴：翻訳家

功労概要：台湾における日本文化の紹介及び相互理解の促進に寄与

頼明珠氏は、台湾における村上春樹作品翻訳家の第一人者であり、村上春樹作品に関連する様々な文化現象が台湾に定着する素地の醸成に貢献するとともに、その翻訳活動を通じて日本文化の普及及び対日理解の促進に寄与した。



## 蔡少卿氏

勲章：瑞宝双光章

主要経歴：(財)交流協会台北事務所 元現地職員

功労概要：(財)交流協会在外事務所活動に寄与

蔡少卿氏は、30年1か月余りの間、(財)交流協会台北事務所（現：(公財)日本台湾交流協会台北事務所）に勤務し、広報文化等に関する業務を担当し、同事務所の業務遂行を支えるとともに、他の現地職員の指導に貢献した。



### 受章者のことば 江春男氏

今回、天皇陛下と日本政府から「旭日中綬章」を授かり心から感謝を申し上げます。このような名誉にあずかり、非常に嬉しく思います。今後も日台友好のために力を尽くしていく所存です。また、小さい頃から「あ、い、う、え、お」といった日本語を教えてくれた両親に感謝したいと思います。天国の両親も今回の受賞を大変喜んでくれるはずです。

どん底からスタートした日台関係が少しずつ改善し、現在では非常に良好な関係になっていることに対して、万感の思いがこみ上げます。50数年前の断交の当日、日本公邸の前は怒った民衆に囲まれ、私も記者として現場にいました。記者として知った内幕は、当時は新聞に書くことはできませんでした。断交後、日台の民間交流は途絶えましたが、産経新聞だけが台湾に駐在記者をおき多くの役割を果たしました。

日本と中華民国の間に国交があった当時、関係は主に経済貿易関係によるものでした。その後、現在の日本台湾交流協会が奨学金や日本への招聘を開始し、私も何度か日本に招待いただきました。

李登輝元総統の時代になって初めて、日本と台湾の関係は絶妙な化学変化を起こしました。日本の大手メディアや学者、作家が続々と台湾にやってきた際は、若かった私も積極的に交流を手助けしました。李登輝元総統は台湾の運命のキーパーソンであったと同時に、日台関係の重要な担い手でありました。のちに安倍晋三元首相の「台湾有事は日本有事」という発言が日台関係をさらに高い次元に押し上げました。多くの台湾人が今でも

安倍元首相を慕っています。

私は常々、台湾の歴史は歪められており、台湾人の運命は自分たちで決めたものではないと感じていました。1972年に日本と中華民国が国交を断交した後、台湾はやっと素顔で日本と交流するようになったのだと思います。民間の動力が自然に日台交流になり、これは国際的にも珍しいです。お互いの災害時に民衆のレベルで支え合う、この力は長い間潜んでいた後爆発したものです。

ここ数年、中華文化総会は上野公園で3度「TAIWAN PLUS」を開催したことに加え、奈良美智氏、東京五輪のエンブレムをデザインした野老朝雄氏、そして熱意と活気に溢れる京都橘高校吹奏楽部を台湾に招待するなど、日台関係に積極的に貢献してきました。

日台は同じ島国で、地理的には同じ地震が多い地域に位置し、歴史的には同じ列島線の上に属し、政治的には同じ民主主義の価値観を有しています。正式な外交関係こそありませんが、私は台湾は日本にとって最も友好的な存在であると信じています。そして、これは民間から溢れる思いと力によるものです。

将来の道のりはまだ長いですが、これまでその過程であった困難を忘れてはいけません。私たちは、日台は手を携えて前進し、その先にはより一層緊密な友情が待っていると信じています。最後に、日本と台湾の友情が末長く続くこと、そして皆様のご健康をお祈り申し上げます。

### 受章者のことば 頼明珠氏

泉裕泰代表、ご臨席の皆様、こんにちは！日本台湾交流協会が設立から50年を迎え、日本と台湾の関係が今後益々深まることを祈念しております。そしてこの度、「旭日双光章」を賜り大変光栄に思います。

私が翻訳家の道を選んだきっかけは、大学2年生の時、授業で先生が「日本の翻訳・出版業界は非常に発達しているから世界の最新情報はすぐ日本語に翻訳される。日本語が分かれば将来きっと役に立つ」と話すのを聞いたことでした。日本語の塾に通い始め、その後千葉大学へ留学しました。授業のほかにも学生寮で同級生と好きな小説家や

小説などについてよく議論を交わしました。当時は五木寛之の『青春の門』、谷崎潤一郎の『春琴抄』などが人気でした。雑誌「暮らしの手帖」に連載されていた藤城清治のカラー影絵「世界童話の旅」にも魅了され、台湾に戻って翻訳をしたいと考えた際、まず童話の翻訳から始めました。

1984年、川本三郎の随筆『都市の感受性』で「都市に生きる作家」として紹介されていた村上春樹と村上龍が印象深く、1985年8月、私は「新書月刊」に「村上春樹的世界」と題した文章を書きました。そして、1986年7月1日に『1973年のピンボール』『カンガルー日和』、1988年4月1日に『風の歌を聴け』を時報出版社から出版しました。こうして、私の翻訳人生が始まりました。

現在、台湾以外にも、香港、中国本土、アジア諸国、欧米など村上春樹作品は世界で50以上の言語に翻訳されています。30年余りに亘って村上作品の翻訳に携わることができ非常に光栄です。

近年、村上春樹は貴重な原稿の多くを母校・早稲田大学に寄贈し、建築家の隈研吾が設計を手掛けた村上ライブラリーが2021年10月に開館しました。その建物は、「飾らないこと」という村上春樹の希望に沿って、親しみやすく読者を大事にするという村上作品の特長を表現した設計になっています。最新作『街とその不確かな壁』が発売された今年4月13日には、紀伊國屋書店新宿本店に村上ファンが長蛇の列を作ったと聞き、その人気ぶりを改めて感じました。

振り返ると、私は、日本語を学んだおかげで視野が広がって人生が豊かになり、非常に感謝しています。若い人たちにもぜひチャンスを掴んで多くを学んでほしいと思います。

本日は、皆様にご挨拶をする機会をいただき、非常に嬉しく存じます。今後とも、ご指導ご鞭撻の程宜しくお願いいたします。

## 受章者のことば 蔡少卿氏

本日、ここで多くの昔の同僚に会えたことを、とても嬉しく思います。また、昔の同僚に「激励」の言葉を伝える機会を与えていただいたことについても、感謝いたします。

1973年秋に交流協会台北事務所に就職して最初の仕事は、日本語の手紙を翻訳することでしたが、冒頭の「前略」という言葉でノックアウトされ、中国語能力を磨くことを決心しました。

また、初めての通訳は、「日台女子プロゴルフトーナメント」前夜祭のレセプションでした。突然通訳を依頼されて登壇したステージの近くには、金丸信・国会議員の夫人と、李登輝・副総統の夫人が座っておられ、お二人は、私を励ますように微笑まれました。大きなプレッシャーでしたが、それ以来、私は日本語学習に注力すると決めました。

1977年から3年間、東京大学に留学した際、日本の古典文学と古典オペラ芸術への強い愛情を育みました。「文楽」が台湾で初めて上演されたとき、私が日本古典文学全集「謡曲集」を手に観賞していると、偶然にも隣に座っていた男性が、同書の編者である佐藤喜久雄・学習院大学教授でした。これを機に、交流協会は佐藤教授のシンポジウムを開催しましたが、この劇場での出会いは、日台の文化交流に対する私のささやかな貢献だったのかもしれない。

在任中、故宮博物院のボランティア研修に参加する機会があり、その後1年半の月日を経て、解説員の資格も取得しました。そして、交流協会を辞めてからも、多くの日本の要人に仕え、公私共に充実した日々を過ごしてきました。

御存じない方もいるかもしれませんが、私たち交流協会の現地職員が、台湾に駐在する外国機関の中で最初に労働保険に加入したのです。これは、私たち現地職員により良い生活が保障されるよう、私たちの上司や先輩が共に努力された結果です。

また、「哈日族」（日本が大好きな人たち）が台湾に現れたとき、査証担当の職員は、延々と続く査証申請者の対応に追われており、ランチタイムには、全員給湯室に集まり、10分もかからずに、水でご飯やおかずを喉に流し込んでいましたが、文句を言う人は一人もいませんでした。現在、日本は台湾人に対し観光目的の査証を免除していますが、当時の皆様の貢献は、交流協会の歴史の中で決して忘れられることはありません。

本日、この勲章を受章することができて光栄です。泉代表等の親切に感謝するとともに、長い間、私と共に頑張ってきた親愛なる同僚にも、深く感

謝したいと思います。今日は、まず私が皆様に代わってこの勲章を受章しますが、次はあなたの番です。頑張ってください！